

OJI 中間期のご報告

2018年4月1日～2018年9月30日

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年3月期第2四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年9月30日、以下、「中間期」)の概要をご報告申し上げます。

なお、中間配当金につきましては、1株につき6円(前年同期比 1円増配)と決定させていただきましたので、あわせてご報告申し上げます。

2018年11月

王子ホールディングス株式会社
代表取締役社長

矢嶋 進

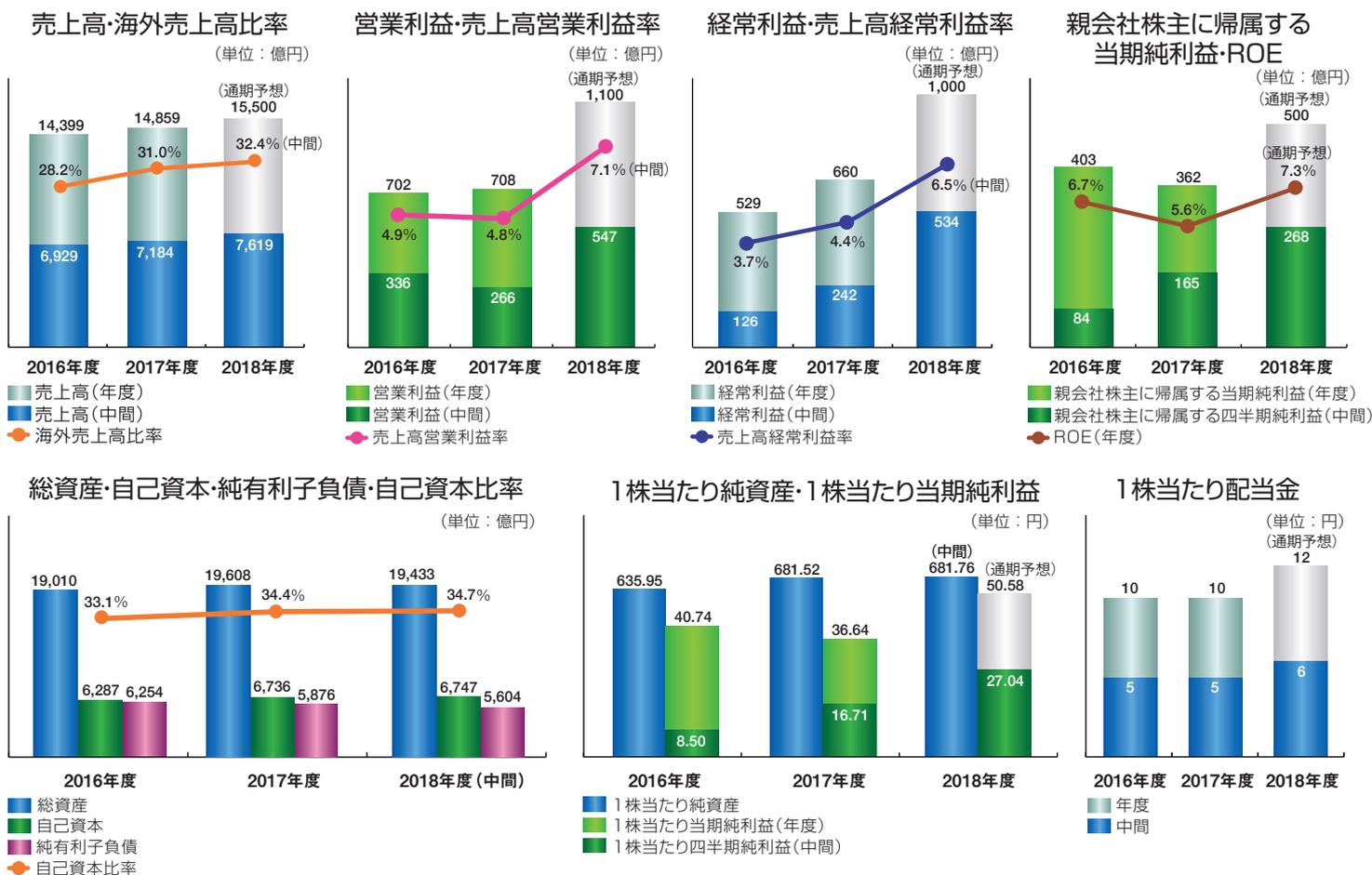


中間期の連結業績ハイライト

売上高	7,619億円	前年同期比	6.1%増
営業利益	547億円	前年同期比	105.7%増
経常利益	534億円	前年同期比	121.0%増
親会社株主に帰属する四半期純利益	268億円	前年同期比	62.0%増

連結業績等の推移

(注) 2018年度通期予想は2018年11月1日時点のものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



中間期のセグメント別の営業の状況

生活産業資材

段ボール原紙・加工、白板紙・紙器、
包装用紙・製袋、家庭紙、紙おむつ

売上高 3,327億円
(前年同期比 4.9%増)
営業利益 103億円
(前年同期比 ———)

構成比(%) 37.1

構成比(%) 19.0

国内事業では、段ボール原紙・段ボールは、台風等の影響により青果物向けが低調に推移しましたが、食品・通販向け等が堅調に推移したこともあり、販売量がほぼ前年並みでした。白板紙は、国内販売および東南アジア向け輸出が好調に推移し、販売量が前年に対し増加しました。包装用紙は、国内販売、輸出ともに、平成30年7月豪雨による工場操業停止影響もあり、販売量が前年に対し減少しました。紙おむつは、子供用・大人用ともに、販売量が前年に対し増加しました。家庭紙は、堅調に推移し、販売量が前年に対し増加しました。

海外事業では、東南アジアにおいて、段ボール原紙は、販売価格上昇の影響により売上高が増加しました。段ボールは、飲料・加工食品関連を中心に販売が堅調に推移しました。紙おむつは、新興国での需要伸長を背景に、マレーシアにおける自社ブランド品の浸透、インドネシアにおける配荷店舗の拡大、中国におけるネピアの知名度を活かした日本からの輸出品の拡販により、販売量が前年に対し大幅に増加しました。



機能材

特殊紙、感熱紙、粘着、フィルム

売上高 1,105億円
(前年同期比 3.8%増)
営業利益 89億円
(前年同期比 0.4%減)

構成比(%) 12.3

構成比(%) 16.4

国内事業では、国内販売向けは、特殊紙は、新製品開発・新規顧客開拓を進めましたが、平成30年北海道胆振東部地震による工場操業停止影響等により販売量が前年に対し減少しました。感熱紙は、堅調に推移し、販売量が前年に対し増加しました。粘着製品は、感熱タック紙を中心に、販売量が前年に対し増加しました。輸出販売向けは、特殊紙は、物流ラベル・衛生材料等の剥離紙や建材用紙等の拡販により、販売量が前年に対し増加しました。

海外事業では、新たにグループ入りしたマレーシアのTele-Paper (M) Sdn. Bhd.が業績拡大に寄与したほか、感熱紙は全ての地域において販売が好調でした。特に東南アジア、南米等の新興諸国においては販売量が前年に対し大幅に増加しました。



資源環境ビジネス

パルプ、エネルギー、植林・木材加工

売上高 1,628億円
(前年同期比 14.4%増)
営業利益 325億円
(前年同期比 121.6%増)

構成比(%) 18.2

構成比(%) 60.2

国内事業では、パルプ事業は、堅調に推移し、販売量がほぼ前年並みでした。エネルギー事業は、堅調に推移し、売電量がほぼ前年並みでした。

海外事業では、パルプ事業は、販売量が堅調に推移したことに加え、価格が上昇したことから売上高が増加しました。木材事業は、Pan Pac Forest Products Ltd.の販売好調により、販売量が前年に対し増加しました。



CENIBRA社(ブラジル)



社有林(北海道)

印刷情報メディア

新聞用紙、印刷・出版・情報用紙

売上高 1,473億円
(前年同期比 0.5%減)
営業利益 △26億円
(前年同期比 ———)

構成比(%) 16.4

構成比(%) ▲4.8

国内事業では、新聞用紙は、発行部数減および頁数減の影響等により、販売量が前年に対し減少しました。印刷・情報用紙は、販売量はほぼ前年並みでしたが、売上高は市況軟化の影響等により、前年に対し減少しました。

海外事業では、江蘇王子製紙有限公司において、堅調な中国紙市況を背景とした販売価格上昇の影響により、売上高が前年に対し増加しました。



その他

不動産、エンジニアリング、
商事、物流 他

売上高 1,434億円
(前年同期比 4.3%増)
営業利益 50億円
(前年同期比 14.8%増)

構成比(%) 16.0

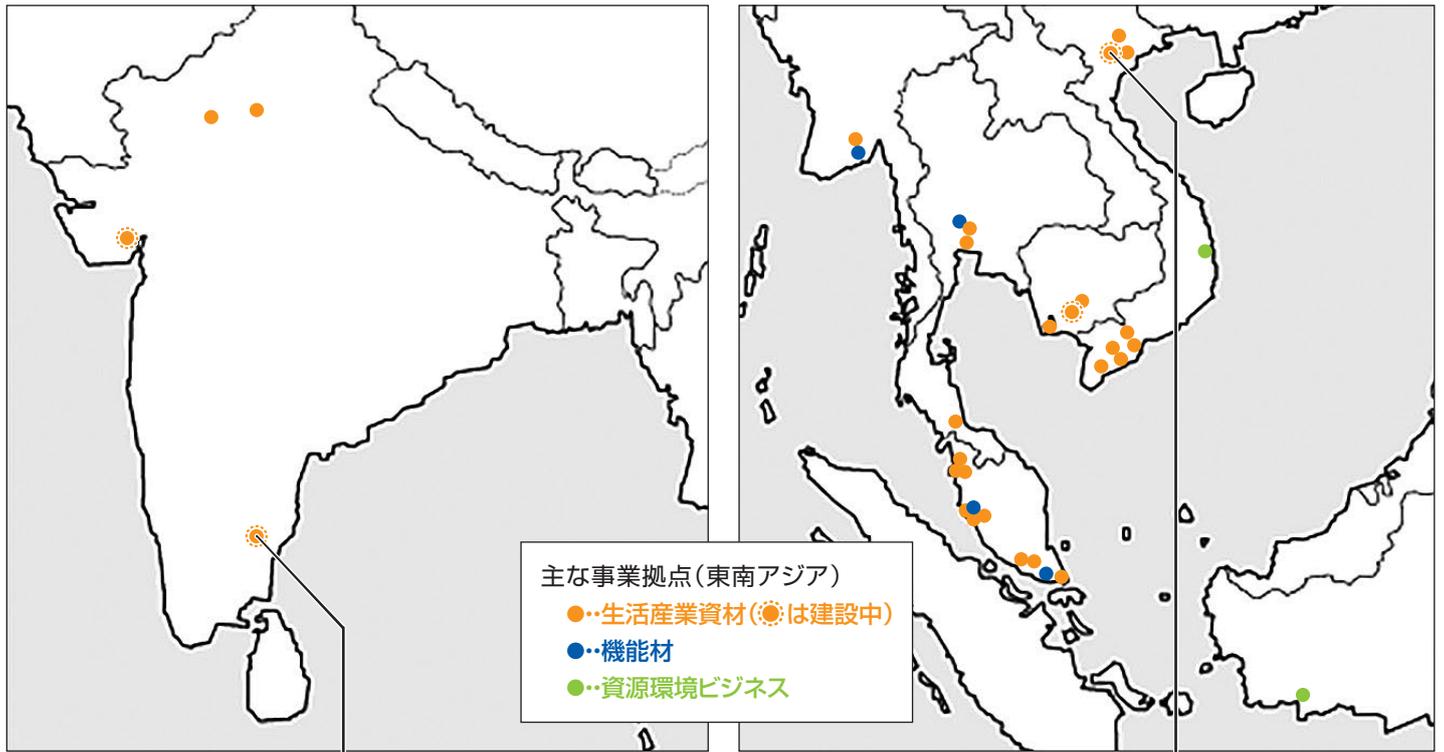
構成比(%) 9.2

(注)セグメント別の売上高および営業利益構成比(%)は、調整額(内部取引に関わる調整額等)を除いて計算しています。

トピックス

東南アジアにおける事業の拡大

着実な経済成長とともに包装や物流の需要が増大している東南アジアにおいて、段ボール原紙および段ボール製品の供給力拡大を進めています。日本国内同様に、現地における段ボール原紙・加工一貫の事業運営を強化するため、マレーシアのGS Paperboard & Packaging Sdn.Bhd.に段ボール原紙マシンを増設することを決定しました。エネルギー供給および用排水設備も更新を行い、2021年4月の稼働開始を予定しています。段ボール加工分野では、地域内の各国で製造拠点の拡大を進めており、マレーシア中部地区の2工場においては生産能力を倍増させる工場拡張工事を、ベトナム、インド、カンボジアではそれぞれ新工場建設を進めています。



インド南部新段ボール工場(完成予想図)



ベトナム新段ボール工場(完成予想図)

国内段ボール事業の強化

堅調な需要が続く段ボール事業において、森紙業株式会社の新工場建設を決定しました。需要の伸びが特に大きいと期待される関東地区の千葉県船橋市に、国内最大規模となる月産20百万㎡の生産能力を持つ工場が2020年4月から順次稼働する予定です。新工場を活用して製品供給力の強化と競争力向上を目指すと同時に、段ボール原紙・加工一貫型ビジネスのさらなる促進を図ります。

環境配慮型製品の開発

当社グループでは、環境負荷の小さな森林資源を原料とするセルロースナノファイバーをはじめとして、地球環境に配慮した素材・製品の開発と提供に積極的に取り組んでいます。紙製品でありながらプラスチックを代替しうるバリア性を有する包装材料、プラスチックストローの代替品製造に適した耐水性の原紙等の開発を加速しています。

また、パルプを生分解性プラスチックと複合化させた樹脂ペレットを開発する等、環境負荷をより低減させた代替プラスチックの普及を通じて持続可能な社会の実現へ貢献してまいります。



バリア性を有する包装材料



パルプでできた紙コップの蓋



樹脂ペレット
(左:生分解性樹脂ペレット単独)
(右:パルプを複合したもの)



成形例
(上:生分解性樹脂ペレット単独)
(下:パルプを複合したもの)

王子ホール リニューアル・オープン

東京・銀座の本社ビルに併設しています「王子ホール」は、昨年10月、開館25周年を迎えたのを機に大規模改修を行い、本年10月、リニューアルオープンしました。

「王子ホール」は、当社グループの文化貢献活動の一環として1992年10月に開館し、お客様の聴きやすさ、快適さにこだわり315席のみを配置し、ゆったりと音楽を楽しんでいただける本格的かつアットホームな音楽ホールです。これまで国内外の一流演奏家を招いて自主公演を中心に活動し、国内外の注目を集め、着実に知名度と文化的地位を高めています。今後も音楽文化の発展に寄与すべく、質の高いホール運営を目指してまいります。



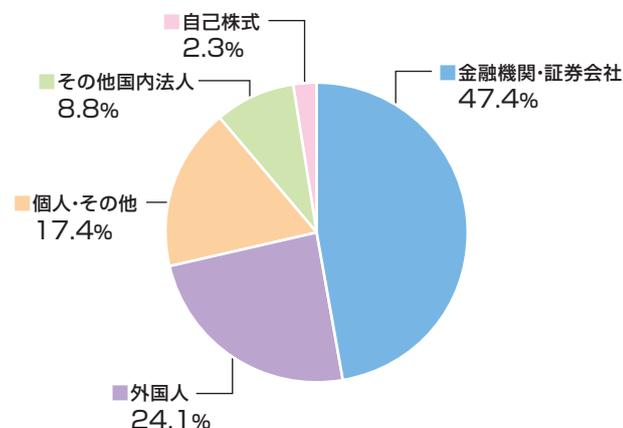
株式の状況

(2018年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 2,400,000,000株
- 発行済株式の総数 1,014,381,817株
(うち自己株式) (23,411,584株)
- 株主数 55,331名
(前期末比 1,788名減)

所有者別持株比率

(2018年9月30日現在)



株式事務についてのご案内

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)



王子ホールディングス株式会社

<https://www.ojiholdings.co.jp/>

